



合繊糸を使用した新分野の委託加工へ

ニット生地の編みたての製造販売業。主に生産していた婦人服のニット生地生産の先行きが不透明であったため、既存製品製造に使用していた『改良した編み機』を活用し、スポーツ・介護医療用品の編みたて委託加工を開始した。新しい分野向けの委託加工であるが試作品作成の早さ、納期厳守などの信頼性により好調に推移している。

業況等の動向について

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

婦人服用の生地生産では今後の先行きが不透明であるため新しいものに挑戦したことがきっかけである。具体的には取引を行っていた合繊メーカーとの話し合いで『このようなこと(スポーツ用品・介護医療用品の生地生産)ができないか?』という提案を受け、試作品を作ったことが新規事業参入の第1歩である。なお、取引先である合繊メーカーとの相談の上で開始した新規事業であるため参入時には改まったマーケティング活動は実施しなかった。

参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

年間を通して、編み機を安定稼働させることができるようになったことは最大の成果である。一方で、新しい商品の試作見本を早く作ること、さらに納期を守りつつ品質の悪い商品を出さない、ということを実行することは非常に困難であった。

業況等について

事業は2011年3月に発生した東日本大震災の影響を殆ど受けることはなかった。売上高も通常ペースで計上できていることを勘案すれば業況はやや好調であると言える。新規参入事業に限っても現在、総売上高の半分に迫る45%を占めるまでになっているが業況的にいえばやや好調といったところである。新規参入事業における好調の要因としては、受注が集中したにもかかわらずきちんと応えられたことにつける。受注が集中した理由は新しい商品の試作見本を他社より早く作ることができていること、納期を守りつつ品質の悪い商品を出さない、といった取り組みが商品ならびに企業としての信頼度を上げたからである。

今後の展望・見通し

今後は拡大方針をとる予定である。しかし国内販売は限界があるので、廃業された同業他社(編みたてを基幹事業として行っていた企業)が対応していた業務を受注することでも事業を拡大したいと考えている。

メリット・デメリット

メリットとしては編み機の安定稼働を実現できたこと、新しいことに挑戦できたこと、が挙げられる。一方でお客様との

繋がりが強くなってくると、時として特定の取引先への依存度が増す場合がある。1社への取引割合が高くなることは経営上のリスクが増すことにもつながっていくためデメリットとして考えることもできる。

異業種参入時のアドバイス

- 1社の取引先に依存しすぎないようにすること。
- 情報が入って来る窓口を広げておくこと。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

新しい編み機を改造するにあたり、昨年(2010年)、一昨年(2009年)と続けて新技術開発の国の補助金を利用した。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

自分で考え実行していくしかないと考えているので、特別に希望している支援策はない。

会社概要

設立:昭和38年4月

資本金:3,375万円

従業員数:28名

URL:<http://www.tochio-knit.jp/>